

今週の一枚 長崎の原爆記念日 2016年8月9日 長崎



【外国の報道関係者もたくさん来ていた。この記者は何を語り発信しようとしているのか】

今年もこの日が来た。
長崎の原爆記念日である。
71年前の11時2分、この式典開催場所の500メートル上空でプルトニューム・原子爆弾が炸裂した。
この時刻に合わせ、会場でも、一分間の黙とうが捧げられた。
その間、樹木にとまる蝉たちの絞り出すような音は鳴り止まず。
あの時も蝉はいて同じように鳴いていたはず。
そこに上空からの凄まじい熱線。
蝉は一瞬にして灰になり、爆風で飛び散ったに違いない。
そして、そのあと、恐ろしい程の静寂。
その静寂を破ったのは何だったのだろうか。
熱線と爆風をどうにか免れ、即死しなかった人のうめき声か、焼け剥がれた皮膚を腕に垂らしながら歩く人の泣き声か……
こういうことが頭に過ぎるうちに「黙とう直れ」となり現実に戻った。

今、私たちは何をすればいいのか。